

knitr

宮崎

2014 年 1 月 12 日

Campbell and Mankiw (1990); 坂井・瀧本 (2010) を参考にする.

はじめに, 乱数を発生させ, 回帰を実施する.

結果を実行すると以下のとおりである.

```
result <- lm(従属変数 ~ 説明変数)
```

結果を表 1 にまとめられる. 回帰係数は 1.8834 である. 結果は図 1 にまとめられる

## 参考文献

Campbell, John Y. and N. Gregory Mankiw (1990) “Consumption, Income, and Interest Rates: Reinterpreting the Time Series Evidence,” NBER Working Paper 2924, National Bureau of Economic Research, Inc.

坂井吉良・瀧本太郎 (2010) 「消費のランダム・ウォーク仮説と恒常所得仮説の検証について」, 『政経研究』, 第 47 巻, 第 1 号, 352-332 頁, 6 月.

表 1 回帰結果表

|      | 推定量    | 標準偏差  | t 値    | P 値   |
|------|--------|-------|--------|-------|
| 切片   | 10.047 | 0.198 | 50.641 | 0.000 |
| 説明変数 | 1.883  | 0.334 | 5.647  | 0.000 |

図 1 回帰結果図

